

砂田明一人芝居『天の魚』からの始まり

—熊本学園大学「水俣学講義」2018年度第14回—

2019.1.10

家中 茂（鳥取大学地域学部）

▶ プロフィール

- ▶ 1954年 東京都墨田区生まれ。1980年～「不知火座」砂田明一人芝居・舞台監督、1982年 東京大学文学部卒業。1995年 有限会社「真南風」設立に参画。2000年 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学（2016年 博士（文学）取得/熊本大学）。2001～4年 沖縄大学地域研究所専任所員、2005年～現在 鳥取大学地域学部教員。
- ▶ 専攻：村落社会学・環境社会学、コモンズ論、住民組織論。

▶ 配付資料

- ▶ ②「それがはじまりだった—自主講座『公害原論との出会い』」（2007. 日本ボランティア学会誌2006年度学会誌特集2「ボランティアとして生きる—宇井純さんを偲んで」）
- ▶ ③「立ち現れる世界」（2007. 石牟礼道子全集『月報13』／石牟礼道子他, 2003, 『花を奉る—石牟礼道子の時空』藤原書店）
- ▶ ④ 新石垣空港建設計画（年表）
- ▶ ⑤ 「新石垣空港建設計画における地元の同意」『年報村落社会研究』第32集（1996. 部分）
- ▶ ⑥ 「里海と地域の力—生成するコモンズ」秋道智彌編『日本のコモンズ思想』（2014. 部分）
- ▶ ⑦⑧砂田明一人芝居関連資料（詩、絵、歌／上演記録）

▶ 参考文献

- ▶ 砂田明, 1975, 『祖さまの郷土 水俣から』講談社。
- ▶ 砂田明, 1983, 『海よ母よ子どもらよ—夢勧進の世界』樹心社。

本日の水俣学講義について

▶ 水俣とのご縁をいただいて、とくに砂田さんの一人芝居から得たことをつうじて、その後、自分のなかで追求してきたことについて、いま携わっている学問研究とのかかわりでお話させていただけたらと思います。

▶ 水俣をつうじて学ばせていただいたことの基本が、自分のいまやっていることの土台になっていると思われます。学問的方法、もしくは、学問的姿勢ということかもしれません。

▶ 前半は、砂田さんの一人芝居にかかわりをもった経緯と芝居の旅のこと、後半は、その経験を基軸とした学問研究への展開—「生成するコモンズ」や「心意」についての問題関心—とさせていただきます。

資料②
資料⑦
資料⑧

「天の魚」との出会い

- 1977年夏 水俣実践学校（水俣生活学校の前身）。川本輝夫さん公訴棄却判決。
- 1980年2月 浅草「木馬亭」公演。
 - ▶ 井の頭線沿線の稽古場にて（時枝俊江さん岡村春彦さん宮本成美さん）、佐藤真さんら、紀伊国屋演劇賞特別賞。
- 1980年～ 「不知火座」砂田明一人芝居「海よ母よ子どもらよ」勧進行脚に同行。
 - ▶ 草の根の住民運動ネットワーク、公害反対運動・有機農業運動、仏教者（真宗）・キリスト者らの活動。
 - ▶ 第1部「大道芸 海の胎」砂田明作詞作曲 主題曲「いのちのうた」、草の訴え「こころぼろぼろ」。
- 1983年夏 フィリピンにて、アジアキリスト教協議会主催・アジア民衆演劇ワークショップに参加（フィリピン、タイ、スリランカ、インド、台湾、日本ほか）。

資料③



(写真：宮本成美)

資料②
資料⑦
資料⑧

「天の魚」

- 江津野老と姉さんのやりとりをみているうちに、いつのまにか自らが姉さんになって江津野老の語りをうけとめている。
- もう一つの世界を生きる「転生」。天井桟敷の水俣の靈たち、鎮魂（招魂）の儀式。淨瑠璃・説教（薩摩琵琶）、夢幻能の形式（死者しか登場しない、生者はみえない）。
- 演劇空間の創出 → 手でつかめるような「気の塊」。
- 「不知火座」一人芝居、勧進元とつくる、会場舞台設営・第1部「大道芸 海の胎」。天の運行（自然）と人の営みのうみだすもの、飛び火して、交歓する、個として受けとめる、発心、詩「起ちなはれ」。余分なものをそぎ落とす、岡村春彦さんら演劇人の共感・支援。
- 一人芝居：坂本長利「土佐源氏」（原作：宮本常一）、新屋英子「身世打鈴シンセタリヨン」、渡辺美佐子「化粧」（こまつ座）。豊田勇造、カラワン楽団の冒険（アジア民衆演劇）。cf. こんにゃく座（林光）、上海パンスキング（斎藤憲・自由劇場）、竹富島種子取祭・芸能奉納。

資料②

石垣島白保サンゴ礁「魚湧く海」との出会い

1983年秋 沖縄県石垣島白保サンゴ礁埋立計画（新石垣空港建設計画）。

- 砂田明さん長尾顕彰さん（京都常寂光寺）の基金による「琉球新報」意見広告、漁業権訴訟（熊本一規さん）、クストー協会への訴え（アイリーン・スミスさん）、海と女たちの会。
- 3つの方針=①およそあらゆるメディア／国内外の注目、②サンゴ礁の科学的調査／国際世論の喚起、③漁業権の徹底理解。

1987～89年 石垣島に暮らす。

- （同時期のこと）水俣チツソ前座り込み、佐藤真さん小林茂さん『阿賀に生きる』、鶴見良行さん中村尚司さん「アラフラ海航海」。

1995年 有限会社「沖縄手叉花・食と工芸 真南風」（魚住けいさん夏目ちえさん）。

- 砂田さん長尾さんへの返済を白保海人の採った天然もずくを食べていただくことで、沖縄の有機農産物を全国の自然食流通へ（大地を守る会、らでいいしうぼーや、パルシステム生協連合会、使い捨て時代を考える会etc.）。



新石垣空港建設計画

- 1979年 5月 沖縄県が白保地先110haを埋立てる新石垣空港建設計画（2500m滑走路）を決定.
- 1979年12月 白保住民は白保公民館総会にて反対決議.
- 1980年11月 白保公民館新石垣空港建設阻止委員会を結成.
- 1979年 7月 石垣市長を会長に新石垣空港建設促進協議会を結成.
→ 石垣市・竹富町・与那国町の八重山郡あげての新空港待望論.
- 1980年 6月 八重山漁協にて「漁業権放棄」決議.
- 1980年12月 沖縄県によって運輸省への空港設置許可申請.
- 1982年 3月 空港設置許可.
- 1983年 9月 沖縄県と八重山漁協の間で漁業補償合意.
→ 沖縄県による公有水面埋立免許申請がいつなされるか緊迫の度を増す.
- 1983年12月 砂田さんと白保を訪れる.





資料② 石垣島白保サンゴ礁 「魚湧く海」との出会い

1983年秋 沖縄県石垣島白保サンゴ礁埋立計画（新石垣空港建設計画）.

- 砂田明さん長尾顕彰さん（京都常寂光寺）の基金による「琉球新報」意見広告、漁業権訴訟（熊本一規さん）、クストー協会への訴え（アイリーン・スミスさん）、海と女たちの会.
- 3つの方針=①およそあらゆるメディア／国内外の注目、②サンゴ礁の科学的調査／国際世論の喚起、③漁業権の徹底理解.

1987～89年 石垣島に暮らす.

- （同時期のこと）水俣チツソ前座り込み、佐藤真さん小林茂さん『阿賀に生きる』、鶴見良行さん中村尚司さん「アラフラ海航海」.

1995年 有限会社「沖縄手ヌ花・食と工芸 真南風」（魚住けいさん夏目ちえさん）.

- 砂田さん長尾さんへの返済を白保海人の採った天然もずくを食べていただくことで、沖縄の有機農産物を全国の自然食流通へ（大地を守る会、らでいつしゅぼーや、パルシステム生協連合会、使い捨て時代を考える会etc.）.

白保にて

資料②
資料⑥

▶白保公民館にて.

- 新石垣空港建設阻止委員会委員長の語りに耳傾けているおばあたち
→ 「天の魚」とおなじく、手でつかめるような「気の塊」、口説き（クドウチ）
- 「海は部落の命」という言葉に込められたことをどう表現するか、「シマの情けの世界」.
cf. 宮本常一『忘れられた日本人』「対馬にて」、きだみのる『気違部落周遊紀行』.

▶漁業法理解をつうじて、むらに会う.

- 慣習（海の入会）としての漁業権、法人のマントを被せる、実在的総合人.
 - 「金はいらない、海がいる」漁業補償金不受理.
(共同漁業権「総有の権利」／「全員一致」の原則)
 - 漁業権がなくなるのはいつか（公有水面埋立法「埋立同意」「着工同意」）
- 「地元の同意」が争点、「地元」とは.

所有の本源的性格にもとづく権利

資料②

- 「歴史をふりかえるとき、なぜ平和を希求する農民や漁民が、ときにあのような騒憂をくわだてたりしたのであろうか、という疑問がわく。・・・人民が本来的にもっている『所有の本源的性格にもとづく権利』が否定されたとき、それに抵抗する以外にいかなる道が残されていようか。近くはたとえば、水俣がそうであった」（鳥越1997:60）/
(家中2007:91)

- 歴史をつうじて、土地所有の管理の主体は、天皇、貴族、武家、私的権利を有する者というように入れ替わってきたが、一貫して、その土地に住む者の権利は認められてきた。それが、「働きかけに応じて権利が発生する」という所有の本源的性格にもとづく権利である（共同占有権）。近代的な所有、すなわち、私的所有が「あるか・ないか」の「排他的独占的」権利であるのに対して、所有の本源的性格にもとづく権利は、働きかけに応じて「濃淡のある」権利として現れる。
→ そのことを、村落社会学研究の蓄積のうえに論証している。
→ 「海は部落の命」「地元の同意」の学術的裏づけ、その土地に住む者の権利。

村落社会学「生活論」・環境社会学「生活環境主義」との出会い

資料②

- 1991年 鶴見良行&中村尚司ゼミ（龍谷大学大学院）「民際学」、鳥越皓之ゼミ（関西学院大学大学院）に通う。
(京都CDI、琵琶湖研究所 → 鳥越皓之・嘉田由紀子, 1984, 『水と人の環境史—琵琶湖報告書』)

- 1993年 関西学院大学大学院社会学研究科（社会人入学）.

- 1996年 「新石垣空港建設計画における地元の同意」『年報村落社会研究』第32集.

- 鳥越皓之, 1988, 「環境権と本源的所有—共同体論から環境問題への接近」桜井徳太郎編『日本社会の変革と再生—共同体と民衆』弘文堂.

- 鳥越皓之, 1997, 『環境社会学の理論と実践—生活環境主義の立場から』有斐閣.

- 白保で見聞きしたことが学術論文となっている（驚き）.

生活論

資料②
資料⑤
資料⑥

- 国学系譜の社会学 鳥越皓之, 2002, 『柳田民俗学のフィロソフィー』東京大学出版会
国学 → 民俗学/新国学 → 村落社会学「生活論」 → 環境社会学「生活環境主義」.
「もののあわれ」→「心意」→「生活規範/生活意識」.
学問における実践とは（問い合わせ）人々の切実な問い合わせに応える.

➤ 生活の立場分析

- 「心意」心を通して対象を知る、生活規範/生活意識、所有論（本源的所有論）.
ライフヒストリー（生活構造論）.

- 論文のなかの「語り」として記録する. ★資料参照
→ ドキュメンタリー（映画、写真、文学、演劇）. 水俣の表現者たち.

- 石牟礼道子全集『月報』「立ち現れる世界」、「悶え神」人は我が身一つの人生しか生きられない.

「新石垣空港建設計画における地元の同意」

去る大東亜戦争のため、部落の近くに飛行場があったため戦争が激しくなったので避難命令が下り、山中に追いやられ、慣れない山中生活のため家族全員親子7人がマラリヤでおれ、枕を並べてしまった。主人は招集され、女一人の身で、米はなし、いもはなし。ソテツの実にかじりつき東の海に出て海藻をとり貝類をとり、毎日のように海あさりに出、戦後の苦しい食糧難を生き抜き、ようやく家族は健康をとりもどし、生き延びてきたのです。当時の苦しみを思い出すと身震い、いやな感じになり、この海がなかったらすでに死んだ身であつただろうと、狂うほど私にとってはこの海は命の母だ、宝だ。絶対つくらせてはならない。新空港建設絶対反対。命とりの空港だ。断念せよ。断念せよ。

(1988年4月27日に県が公表した環境アセスメントに対する白保住民の意見書より)

(家中1996:226-227)

- たとえばここにといったら、白保地区でしょ。市がどうする県がどうするではないよ。ああここに空港をつくらせたら白保としては大変だということになるよ。 ····· (家中1996:227)
- 毎日の生活のなかに歴史的に、ひとりひとりの部落民の中に根強く、海との関係が焼きついているということが大きな力だと思うんですよ。 ····· (家中1996:228)
- ぼくはあんまり頭にね、大きなことを夢を見たような感じのものの言い方をしないわけよ。日頃から生活しながら感じていること自体がね、全部の頭の中にあるんじゃないかなと思っているわけよ。 ····· (家中1996:228-229)
- 私が言っていること自体は、部落民のね、地域住民のひとりひとりが生活の中で強く感じとっていることに対して、一致した考え方方が私が訴えることによってはっきりと出てきて、それが意気投合したことなんです。 ····· (家中1996:229)
- 豊年祭のとき、弥勒（ミロク）が歌とあわせてくるでしょ。あのときは、誰もしやべらんでしょ。無言のなかにね、非常に沈痛な思いがして、しまいには涙が出るような、喜びというかな、そういう感じで迎えるわけよね。 ····· (家中1996:230)

「里海と地域の力—生成するコモンズ」

- 子どもなんかがあまりにひもじい思いで。 そうすると、うちの主人がよ、鉛をもって海に出かけた。 そしていっぱい魚をとって。 海でこしらえて潮水汲んで炊いてよ。 そうしたら子どもが元気になって。 芋もない、米もない。ただ海でとれた魚だけ。 ····· (家中2014:70)
- 終戦後、うちの主人が目におできができるでね、手術をしたために、目を失ってしまっているさ。 だから、7人の子どもを育てるのによ、非常に苦労したよ。 ····· (家中2014:70-71)
- この海で助かったんですよ。津波のときも、終戦直後も。作物というのは、今日作って明日食われるものではない。芋を植えても3ヶ月はかかるでしょ。米にしても4ヶ月後でないと食べられんでしょ。 ····· (家中2014:71)
- 私が一言一句しゃべっていくでしょ、それがそのまま自分なんかの悩みの、生き延びたこの生活のなかにあるから、強く自分の胸を打たれていくような感じがするわけさ、あの人にもこの人にも。 ····· (家中2014:72)

- 国学系譜の社会学 鳥越皓之, 2002, 『柳田民俗学のフィロソフィー』東京大学出版会
国学 → 民俗学/新国学 → 村落社会学「生活論」 → 環境社会学「生活環境主義」。
「もののあわれ」 → 「心意」 → 「生活規範/生活意識」。
学問における実践とは（問い合わせ）人々の切実な問い合わせに応える。
- 生活の立場分析
「心意」心を通して対象を知る、生活規範/生活意識、所有論（本源的所有論）、
ライフヒストリー（生活構造論）。学問における実践とは（問い合わせ）。
- 論文のなかの「語り」として記録する。 ★資料参照
→ ドキュメンタリー（映画、写真、文学、演劇）。水俣の表現者たち。
- 石牟礼道子全集『月報』「立ち現れる世界」。「悶え神」人は我が身一つの人生しか生きられない。
- アクチュアリティ、生命論的差異／ビオスとゾーエー、述語的な自己（モノとコト、中動態／聞える、見える、生れる）。 (木村敏/精神病理学・臨床哲学)
- 情報とは、生命体にとって意味あるもの。情報は、生命体にとって意味作用をもたらす。